

## 親子体験教室（保護者、地域の人材などの方をリーダーとして）

### みくに幼稚園（千葉県柏市）

保護者、地域の人材などの方をリーダーとして幼稚園の休みである土、日曜日に本年度も開催しています。普段あまり親子で接することの少ない保護者の人の参加が多いのも特長です。幼稚園という人的、物的拠点を核として様々な活動が展開し始めました。

#### 実施例

##### 「私にもさせてください」 一人歩きし始めた活動

昨年度は幼稚園サイドが計画立案していた活動だったのですが、本年度は自発的な申し出が沢山出てきました。オホーツクの流氷をもってきて説明して下さる気象庁の方。子どもに楽器を触れさせたいと楽器を持って演奏して下さる演奏家。ピアノを分解して見せてくれた調律師さん。虫歯の話をして下さる歯科衛生士の方、化石のレプリカ作りを指導してくれる歯医者さん等々。昨年以上にもりあがってきています。地域の方の協力もあります。二歳児、三歳児という小さい子どもと一緒にこんな科学おもちゃ作りを計画したお母さん、小学校でPTA活動として同様の活動を始めた卒業生の保護者。親子体験が地域での活動に変化しつつあります。

##### 「庭は掘るものだよ」 どんな園庭が好まれるのか？

芝生の管理運営をする会社にお勤めの方を中心にして先ず、親子一緒に幼稚園の庭で遊んでもらいました。一緒に穴を掘ったり、整地したり、芝生を植えたり、芝の種をまいたりしながら、子どもたちが毎日遊んでいる園庭に、より関心を持ってもらいました。親子で芝生を植えて、どのような遊びが展開されるかと期待したのですが、大人の思いは期待はずれに終わってしまいました。「先生このお庭は掘れないの？」全面砂の幼稚園の庭はどこでも簡単に掘ったり戻したりできるのが良かったのでした。庭の半分を芝生にしたとき、養生期間もあり、なかなか芝生の中に立ち入ることができませんでした。「先生、お庭はほるもんだよ！」年長児たちが不満を言い始めました。

やはり、保全しながら遊ぶということは困難なことでした。しかし、保護者が園にそして砂で遊ぶことに興味を示してくれたことは幸いでした。子どもたちも芝生を大事にしていたのですが、残念ながら車の轍で枯れてしまいました。今年、園庭の改修にもう一度挑戦します。

##### 「めだかの学校の誕生」 誰が生徒か先生か？

「幼稚園でお魚を飼いませんか？」卒業生の保護者からの1通のメールからはじまりました。今年の親子体験は卒業生も多数参加していました。手賀沼でめだかを沢山捕まえたので、幼稚園で飼育したらというお申し出だったのです。有り難くお受けしましたが、みんなで手賀沼にいてその生態や沼の様子を観察した後、飼える分だけを採用してきました。そのほかにもウサギやどんぐりの木、球根にカブトムシにと様々なものが幼稚園に持ち込まれてきます。親子で様々な体験をする中で、より幼稚園に愛着が生まれるとともに幼児に興味がありそうなものがどんどん増えてきました。



めだかの学校ができました



秋の自然観察会のようす



流氷は冷たくてしょっぱいね

## 考察

月に2度のペースでおこなってきましたが、活動自体が大きく軌道修正されてきています。保護者の意欲の高まりと地域の活動への積極的な参加姿勢によって、幼稚園という枠から一步踏み出して地域社会へと進み始めています。また、受身でなく自分も参加し、一緒に高めあいたいという意識が保護者の間に芽生えはじめています。親子で科学する心を育てるところから、他の家族と一緒に科学することを楽しむところまでやってきました。

### [今後の取り組み]

来年度の取り組みとしては、科学する心を育てるため、保護者、地域の人材をより積極的に登用して幼稚園教育の中に組み入れていきます。そのための教育課程編成をしていきます。また、せっかくできつつある、地域のネットワークをより有効的なものにするために、他の幼稚園、保育園、小学校等と連携して科学教育、ボランティア指導者の地域でのデータベース化を図りたいと考えています。園外保育に関していえば、次年度の子どもたちにあわせた計画を立てていきます。大人数になったとき、外国籍で日本語の覚束ないこの子の対応をどうするか、何を育てたいのか、引率のあり方についてなどを研究していきます。

### 16年度親子体験計画表

4月	野鳥観察会	幼稚園で探検?
5月	小動物園	楽器の不思議
6月	園長先生のローソクの科学	親子で大掃除
7月	祭りに参加しよう	お菓子を作ろう
8月	紫外線の科学	ピーターフランクさんの講演会
9月	ロケットを飛ばそう	親子観劇会
10月	芝生を植えよう	どんぐりころころ
11月	料理に挑戦	年賀状をつくろう
12月	注連縄作り体験	餅はどうやってできるのか
1月	親子で凧作り	越冬する動植物は
2月	サイエンスワンダーランド	屋上緑化計画
3月	サイエンスワンダーランド2	



傷ついた野鳥を保護し、放つとき



水族園にて学芸員の方に質問

### みどころ

地域連携という言葉ではまとめられないほどに、子どもを取り巻く身近な環境や情報は広がり、活動も多様化しています。この園でも、充実した親子活動を継続することで、園での体験を通して幼児教育や子どもたちとの活動に熱心に力を発揮して下さる方々も活動も広がっています。在園児の保護者という枠を超えて「子どもたちと〇〇をしたい」という思いで保育活動に参加して下さる方の姿は、その活動で充実を味わう子どもたちや他の参加者の方にもボランティアの芽生えを培うほどに、熱意が伝わったと思われまます。日常の保育活動だけでは満足できないような新たな体験ができることで、子どもたちの持つ好奇心や探究心が揺り動かされる場面は、そこでかかわる周囲の大人にも学びや充実感を味わう場になっています。「受身でなく自分も参加し、一緒に高めあいたいという意識が保護者の間に芽生えはじめています。親子で科学する心を育てるところから、他の家族と一緒に科学することを楽しむところまでやってきました」と考察にあるように、科学する心は、「一緒に科学することを楽しむ」充実した活動の中で、誰もが育まれているのかもしれない。